



2.4GHz帯デジタル・ワイヤレスシステム

DMS300 SET ハンドヘルドマイク DMS300 SET イヤーフックマイク DMS300 SET ラベリアマイク

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。



警告

- AC100V 50/60Hz の電源で使用してください。これ以外の電源では火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源アダプターを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。また、電源アダプターは他の機器には使用しないでください。
- 電源アダプターのコードの上に重い物を乗せたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。電源アダプターのコードが傷んだら、ただちに使用を中止して販売店に交換をご依頼ください。
- 付近にペースメーカーを装着されている方がいる場合は、装着部から 22cm 以上離して使用してください。電波の影響によってペースメーカーが誤作動する恐れがあります。
- 医療機関内や航空機内では使用しないでください。電波の影響によって機器が誤作動し、事故の原因となる恐れがあります。
- 水に入れたり、濡らさないでください。また、水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。火災や感電の原因となります。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、ただちに電源アダプターをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。
- 長時間使用しない時や落雷の恐れがある時は、電源アダプターをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因となります。また、雷が鳴り出したら金属部分や電源アダプターには触れないでください。



注意

- 斜面や不安定な場所に設置しないでください。また、ラックに設置する場合は、必ず専用のラックマウント金具を使用し、重量を支えるために全てのねじをしっかりと固定してください。落下すると、けがや器物破損の原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。火災や故障の原因となります。
 - ・ 直射日光の当たる場所
 - ・ 温度の特に高い場所、または低い場所
 - ・ 湿気の多い場所
 - ・ ほこりの多い場所
 - ・ 振動の多い場所
 - ・ 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 機器の移動は、電源アダプターや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがや故障、ケーブル破損の原因となります。
- 配線は、全ての機器をコンセントから抜き、取扱説明書に従って正しく行ってください。コンセントに差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショート等は火災の原因となります。
- 濡れた手で、電源アダプターや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。
- 指定以外の電池は使用しないでください。また半年以上使用しないときは、送信機から電池を取り外してください。電池の破裂、液漏れによるけがや火災の原因となります。
- 送信機に電池を挿入するときは極性の向きに注意し、機器の表示通りに正しく入れてください。間違えると、液漏れによるけがや火災の原因となります。

使用上のご注意

電波に関する注意

- 本機で受信機と送信機が通信可能な距離は約 30m です。2.4GHz 帯の周波数を使用しているため、「受信機と送信機の間に障害物がある場合」「受信機や送信機を直接地面や床に置いた場合」「雨天時の屋外で使用した場合」「無線 LAN や電子レンジ等、電波を発信する機器が使用されている場所で使用した場合」では、通信距離が短くなったり音が途切れる可能性があります。上手く動作しない場合は、障害物を取り除くか、使用場所を変更してください。
- 本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
 - ・ 本機を分解 / 改造すること。
 - ・ 本機に貼ってある証明番号が印刷されたラベルをはがすこと。

- 本機が使用している 2.4GHz 帯は他の無線機器でも使用している場合があります。他の無線機器との電波干渉を防止するために、以下の事項に注意してご使用ください。

本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局（以下「他の無線局」）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本機の使用場所を変えるか、運用を停止してください。
3. 不明な点、その他お困りのことが起きたときは、以下の連絡先へお問い合わせください。

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.
カスタマーサポート
TEL: 03-5783-3110

【現品表示】

現品表示は以下のことを表しています。

本機は 2.4GHz の周波数帯の電波を利用しています。変調方式として GFSK (ガウス周波数シフトキーイング) を採用し、想定される干渉距離は約 30m です。

2.4 XX/OF 4



その他の注意

- 本機は信号を伝送する際に AES256bit で暗号化していますが、第三者による傍受に対してセキュリティを保証するものではありません。
- 高電圧送電ケーブル、携帯電話、ブラウン管、テープ・レコーダ等の強電磁界付近への設置は避けてください。外部からの誘導電界は、音声回路に悪影響を与えます。

目次

安全上のご注意	P.2
使用上のご注意	P.3
目次	P.4
梱包内容の確認	P.5
各部の名称と機能	P.6
受信機の設置	P.10
セットアップ	P.12
受信機と送信機のペアリング	P.13
複数台を同時に使用する	P.14
トラブルシューティング	P.15
仕様	P.16

梱包内容の確認

DMS300 は、1 チャンネルの受信機 1 台と送信機 1 個がセットになっています。送信機はハンドヘルド型とボディーパック型の 2 種類を用意しています。以下に、それぞれの商品の梱包内容を記載しますので、パッケージを確認してください。

DMS300 SET ハンドヘルドマイク

受信機、ハンドヘルド型送信機、マイクホルダー、アンテナ×2、単 3 形アルカリ乾電池×2、シンク・ケーブル (約 28cm)、電源アダプター、和文取扱説明書

DMS300 SET イヤーフックマイク

受信機、ボディーパック型送信機、アンテナ×2、単 3 形アルカリ乾電池×2、シンク・ケーブル (約 28cm)、電源アダプター、イヤーフック・マイクロホン (C111 LP)、ウィンドスクリーン×2、クリップ、マイクポーチ、和文取扱説明書

DMS300 SET ラベリアマイク

受信機、ボディーパック型送信機、アンテナ×2、単 3 形アルカリ乾電池×2、シンク・ケーブル (約 28cm)、電源アダプター、ラベリア・マイクロホン (CK99 L)、ウィンドスクリーン、クリップ、和文取扱説明書

各部の名称と機能

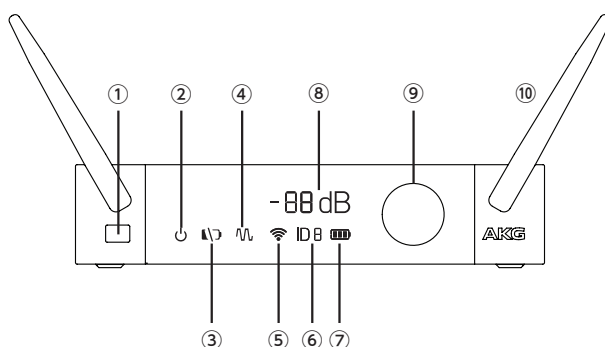
ここでは、本機の受信機、ハンドヘルド型送信機、ボディーパック型送信機の各部の名称と機能について記載します。

受信機

受信機は 1 チャンネル仕様で、1 台で 1 個の送信機と組み合わせて（ペアリングさせて）使用します。

- 備考**
- ・同一空間に設置できる受信機の数とは最大 8 台です。同時運用可能チャンネル数も 8 チャンネルまでとなります。
 - ・同時運用可能なチャンネル数は、通信の妨げとなる障害物のない場所で運用し、かつ他の電波の影響の少ない環境で使用した場合の最大値です。環境によっては運用可能なチャンネル数は少なくなる可能性があります。

前面パネル



① 電源ボタン

電源を ON または OFF にします。ON にすると電源が供給されます。

② 電源インジケータ

電源を ON にすると白色に点灯します。

③ 電池切れインジケータ

ペアリングしている送信機の電池残量が少なくなると赤色に点灯します。早めに新しい電池と交換してください。

④ クリップインジケータ

送信機から入力される信号がクリップすると赤色に点灯します。ピーク時にのみ点灯するのであれば問題はありませんが、頻繁に点灯する場合は送信機のゲインを下げてください（ゲインが下げられるのはボディーパック型送信機のみ）。

⑤ 電波インジケータ (LCD)

送受信している電波の状況を表示します。

白色に点灯：電波表示の本数が多いほど電波が安定しています。

消灯：電波が途切れています。

⑥ チャンネル ID インジケータ (LCD)

送信機とのペアリング状態を表示します。チャンネル ID ナンバーの設定も可能です。

点灯：送信機とペアリングしています。

ゆっくり点滅：送信機とペアリングしていません。使用中に電波が途切れた場合も点灯から点滅に変わります。

素早く点滅：ペアリングモードになっています。ペアリングする送信機を検索しています。

備考

受信機がペアリングモードになっているときに受信機の音量つまみを回すと、チャンネル ID インジケータの表示が ID1 ～ 8 まで順に切り替わり、いずれかに変更できます。変更した状態でペアリングすると、送信機のチャンネル ID インジケータも同じナンバーに変わるため、ペアリングしている送受信機を簡単に識別できます。

⑦ 電池残量・インジケータ (LCD)

ペアリングしている送信機の電池残量を表示します。

■■■：電池残量が十分あります。

■■：電池残量がやや減りました。

■：電池残量が少なくなっています。

点滅：電池残量がなくなりました。新しい電池に交換してください。

消灯：リンクが切れて送信機の電池残量が確認できません。電池切れかリンク切れの状態です。

⑧ 音量ディスプレイ

受信機の音量設定値を表示します。音量つまみを回すと音量の変更ができます。ペアリングしている送信機をミュートすると、音量表示が点滅します。

⑨ 音量つまみ・ペアリングボタン

出力音量を調整したり、ペアリングモードに切り替えます。

ノブを回転：出力端子から出力される信号の音量を調整します。
ペアリングモード中にノブを回すと、チャンネル ID ナンバーを変更できます。

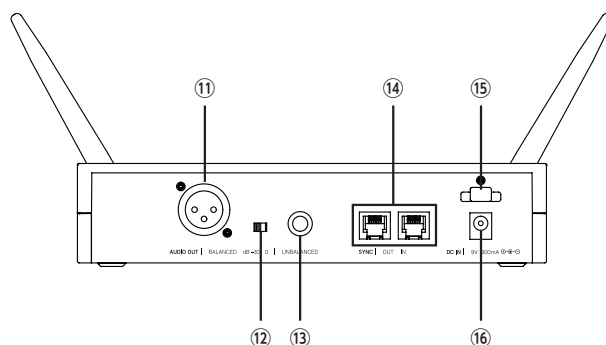
約 2 秒間長押し：チャンネル ID インジケーターが素早く点滅し、送信機とペアリングを行うペアリングモードになります。

約 1 秒間長押し：ペアリングしている送信機のミュートを ON/OFF します。

⑩ アンテナ

信号を送受信するアンテナです。付属のアンテナの端子部分を時計回りに回して、受信機にアンテナを固定します。

背面パネル



⑪ XLR 出力端子

バランス仕様の XLR 出力端子です。レベルスイッチで出力信号のレベルをマイクまたはラインに切り替えられます。ミキサー等に接続してください。

⑫ レベルスイッチ

XLR 出力端子から出力される信号の出力レベルをマイク (0) またはライン (-30) 切り替えるスイッチです。音量が大きい場合は「-30」に設定してください。

⑬ 標準フォーン出力端子

アンバランス仕様の標準フォーン出力端子です。ラインレベルの信号を出力します。ミキサー等に接続してください。

備考 標準フォーン出力端子を使用する場合、ケーブルの長さは 3 m 以内にしてください。

⑭ シンク入出力端子

複数台を同時使用の場合は受信機同士をシンクケーブルで接続します。

⑮ コード・ループ・タイ

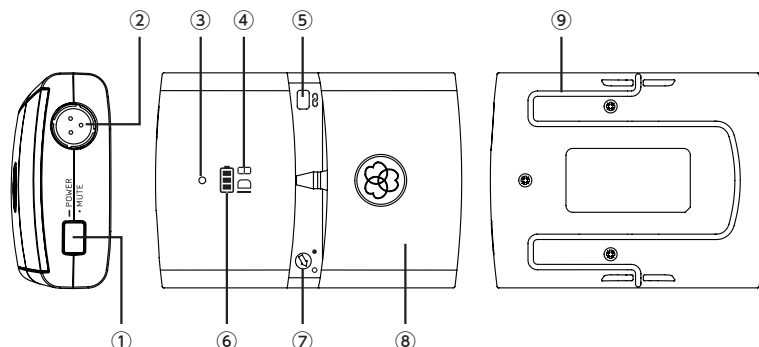
電源アダプターの電源端子が抜けないように、コードを留めるループです。詳細は P.12 の「セットアップ」をご覧ください。

⑯ 電源端子

付属の電源アダプターを接続します。

ボディーパック型送信機

備考 ・ ボディーパック型送信機とマイクロホンのカートリッジ（収音部）は 10cm 以上離してください。電波がマイクロホンに干渉してノイズが発生することがあります。



① 電源・ミュートボタン

電源とミュートを ON または OFF にします。

約 2 秒間長押し：電源を ON/OFF します。

約 1 秒間長押し：ミュートを ON/OFF します。

② 入力端子

バランス仕様のミニ XLR 入力端子です。付属のマイクロホンを接続します。詳細は P.12 の「セットアップ」をご覧ください。

③ ステータス・インジケータ

動作状態を表示します。

緑色に点灯：電源が ON になっています。

赤色に点灯：ミュートが ON になっています。

緑色と赤色が交互に点灯：電池残量が少なくなっています。早めに新しい電池と交換してください（ミュート時は赤色で点滅します。）。

消灯：電源が OFF になっています。

④ チャンネル ID インジケータ (LCD)

受信機とのペアリング状態を表示します。

点灯：受信機とペアリングしています。

ゆっくり点滅：受信機とペアリングしていません。使用中に電波が途切れた場合も点灯から点滅に変わります。

数字が素早く切り替わり点灯：ペアリングモードになっています。ペアリングする受信機を検索しています。

備考

受信機がペアリングモードになっているときに受信機の音量つまみを回すと、チャンネル ID インジケータの表示が ID1 ～ 8 まで順に切り替わり、いずれかに変更できます。変更した状態でペアリングすると、送信機のチャンネル ID インジケータも同じナンバーに変わるため、ペアリングしている送受信機を簡単に識別できます。

約 30 秒後に自動消灯します。再び表示するには送信機の電源ボタンを押してください。

⑤ ペアリングボタン

受信機とペアリングするためのボタンです。受信機がペアリングモードのときに約 2 秒間長押しすると自動でペアリングします。詳細は P.13 の「受信機と送信機のペアリング」をご覧ください。

⑥ 電池残量・インジケータ (LCD)

送信機の電池残量を表示します。

■■■：電池残量が十分あります。

■■：電池残量がやや減りました。

■：電池残量が少なくなっています。

点滅：電池残量がなくなりました。新しい電池に交換してください。消灯：電池切れの状態です。新しい電池に交換してください。

備考

約 30 秒後に自動消灯します。再び表示するには送信機の電源ボタンを押してください。

⑦ ゲインつまみ

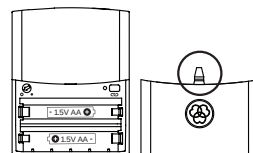
ゲインを設定します。受信機のフリップインジケータが頻繁に点灯する場合は、左に回してゲインを下げてください。

⑧ 電池カバー

電池カバーです。中央にある AKG のマークの上部を押しながら下に引くと外せます。電池は本体に記載してある表示に従って入れてください。

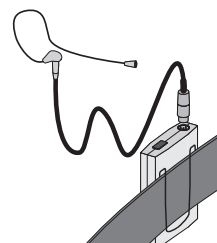
備考

電池カバーの AKG マーク上部にある突起は、ゲインつまみ进行操作する際のドライバーとして使用できます。



⑨ ベルトクリップ

ベルトやポケットに装着する場合に使用します。



受信機の設置

ここでは、受信機の設置方法について記載します。

受信機の設置

送信機を使用する場所から視認できる、台や機材ラックに受信機を設置します。
受信機と送信機が通信可能な距離は約 30m です。

備考

・DMS300 は 2.4GHz 帯の周波数を使用しているため、「受信機と送信機の間に障害物がある場合」「受信機や送信機を直接地面や床に置いた場合」「雨天時の屋外で使用した場合」「無線 LAN や電子レンジ等、電波を発信する機器が使用されている場所で使用した場合」では、通信距離が短くなったり音が途切れる可能性があります。上手く動作しない場合は、障害物を取り除くか、使用場所を変更してください。

受信機のラックマウント (オプション)

受信機はオプションのラックマウント金具「RMU40 PRO」を使用して、EIA1U のスペースにラックマウントすることが可能です。
以下の手順に従って取り付けてください。

梱包物

- ・ラックマウント金具 (大) × 1
- ・ラックマウント金具 (小) × 2
- ・連結金具 × 2
- ・連結金具固定ねじ (短) * × 4
- ・金具固定ねじ (長) × 8

※本機では使用しません。

注意

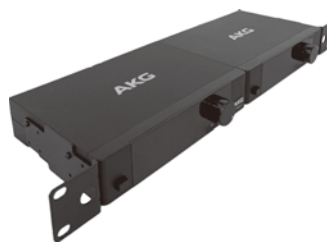
設置作業をする前に本機からアンテナと全てのケーブルを外してください。

また、ラックに設置する際は、落下防止のため全てのねじをしっかりと固定してください。

設置する台数に応じて二通りのラックマウント方法があります。



受信機 1 台をラックマウント



受信機 2 台を連結してラックマウント

1 台の受信機を EIA1U のスペースにラックマウントする

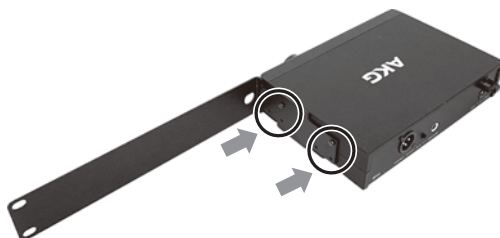
※ ラックの左側への取り付け方法について説明していますが右側に取り付けることもできます。

- ① 裏向きにして底面についている 4 つの足を外し、表向きに戻します。



② 左右両側面にある 4 本のねじを外します。

③ 右側面にラックマウント金具 (大) を金具固定ねじ (長) で取り付けます。

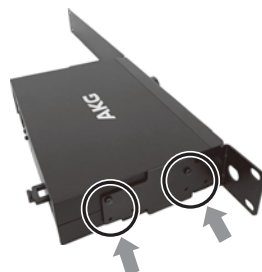


④ 左側面に、ラックマウント金具 (小) を金具固定ねじ (長) で取り付けます。

⑤ ラックマウントねじを使用してラックに固定します。



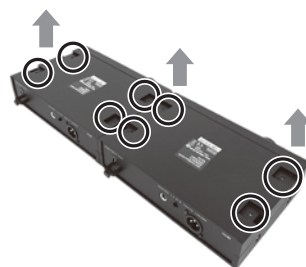
- ・ラックマウントねじは付属していません。別途ご用意ください。
- ・アンテナはラックマウント後に取り付けてください。



2 台の受信機を連結して EIA1U のスペースにラックマウントする

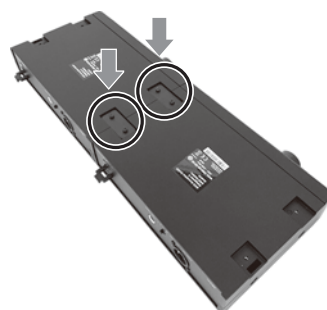
① 裏向きにします。

② 底面についている 8 つの足を外して、ラックマウントした状態になるように 2 台を横に並べます。



③ 内側の足がついていた穴に連結金具を取り付けて、2 台を連結します。連結金具の固定には、足を固定していたねじを使用してください。

④ 連結した 2 台を表向きに戻します。

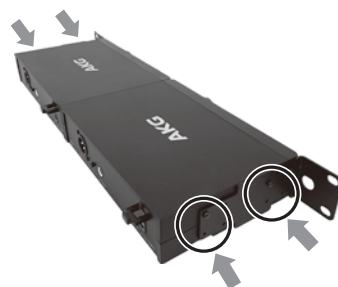


⑤ 連結した 2 台の左右両側面にある 4 本のねじを外し、ラックマウント金具 (小) を金具固定ねじ (長) で取り付けます。

⑥ ラックマウントねじを使用してラックに固定します。



- ・連結後に本機を持ち上げる際は、連結金具に荷重がかかり過ぎないようにご注意ください。
- ・ラックマウントねじは付属していません。別途ご用意ください。
- ・アンテナはラックマウント後に取り付けてください。

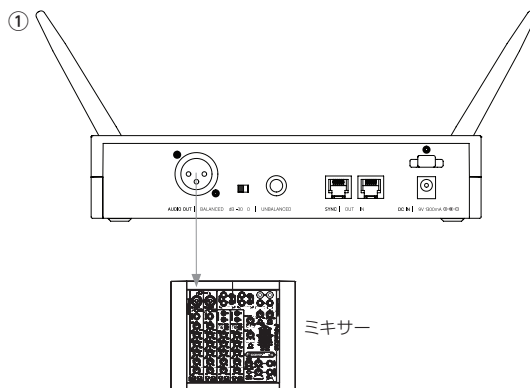


セットアップ

ここでは、セットアップの方法を記載します。

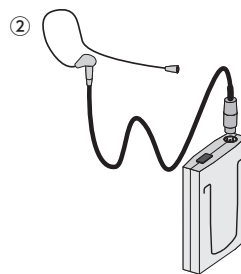
1. 受信機と PA システムを接続する (①)

受信機にアンテナを取り付けます。受信機の音量つまみを左に回し切りにして、出力端子とミキサーなどの PA システムの入力端子を接続します。



2. ボディーバック型送信機を使用する場合は、付属のマイクロホンを入力端子に接続する (②)

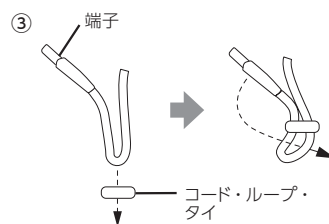
⚠ 注意 付属のマイクロホン以外を使用した場合、動作の保障はできません。また、その場合に発生した故障は保証の対象外となります。



3. 受信機の電源を ON にする (③)

以下の手順で電源を ON にします。

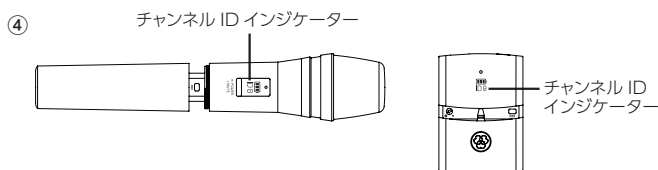
- (1) 付属の電源アダプターの端子側を、受信機のコード・ループ・タイに通してから電源端子に接続します。
- (2) 電源アダプターを電源コンセントに接続します。
- (3) 受信機の電源スイッチを押して電源を ON にします。



4. 送信機の電源を ON にする (④)

以下の手順で電源を ON にします。

- (1) 送信機の電池カバーを外し、本体に記載してある表示に従って電池を挿入します。
- (2) 電源ボタンを長押しして電源を ON にします。動作状況に応じて、チャンネル ID インジケーターが以下のように点灯します。ペアリングが切れている場合はペアリングさせてください。



ID1 ~ 8 のいずれかに点灯: 送信機と受信機のペアリングが確立されています。ほかの受信機にペアリングさせたい場合は、P.13 の「受信機と送信機のペアリング」にしたがって再ペアリングさせてください。

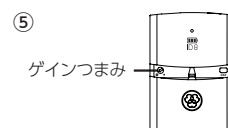
ID1 ~ 8 のいずれかにゆっくり点滅: 送信機と受信機のペアリングが切れています。P.13 の「受信機と送信機のペアリング」にしたがってペアリングさせてください。

5. PA システムの電源を ON にする

接続した PA システムの電源を ON にして、音が出る状態にします。

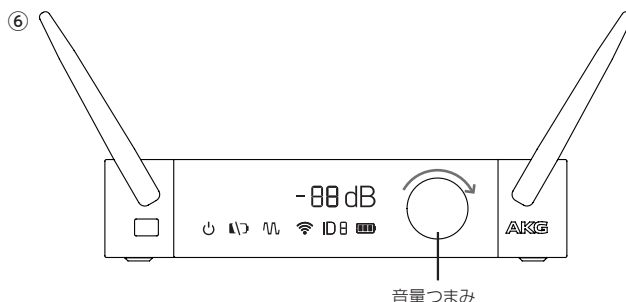
6. ボディーバック型送信機を使用する場合は、マイク入力ゲインを調整する (⑤)

受信機のクリップ・インジケータを確認しながら、マイクロホンに向かって声を出します。クリップ・インジケータがピーク時にのみ点灯するのであれば問題はありませんが、頻繁に点灯する場合はゲインつまみでボディーバック型送信機のゲインを下げてください。



7. 受信機の出力レベルを調整する (⑥)

受信機の音量つまみで信号の出力レベルを調整します。



受信機と送信機のペアリング

「受信機と送信機をペアリングする」「現在ペアリングされている受信機とは異なる受信機に送信機をペアリングする」場合は、以下の手順に従ってください。

- 備考**
- ・受信機と送信機の接続の状況は、受信機と送信機のチャンネル ID インジケータで確認できます。同じ ID ナンバーが点灯している場合は正しくペアリングされています。点滅していたり、チャンネル ID ナンバーが違う場合はペアリングしなおしてください。
 - ・受信機と送信機の設定は電源を OFF にしても内部に保持されるため、次回からは電源を入れるだけですぐに使用できます。

受信機と送信機をペアリングする

- (1) 受信機のペアリングボタンを約 2 秒間押し続けます。するとチャンネル ID インジケータが素早く点滅してペアリングモードになります。
- (2) ペアリングモード中に受信機の音量つまみを回すとチャンネル ID ナンバー (ID 1 ~ 8) を切り替えることができます。設定したいチャンネル ID ナンバーが表示されるまで音量つまみを回します。
- (3) 設定したいナンバーが表示されたら、送信機のペアリングボタンを約 2 秒間押し続けてペアリングモードにします。すると受信機とのペアリングが自動で確立され、受信機と送信機のチャンネル ID インジケータが設定したチャンネル ID ナンバーで点灯します。

- 備考**
- ・工場出荷時のチャンネル ID ナンバーは「ID 1」に設定されています。
 - ・(1) の作業を行ってから 30 秒以内に次の作業を行ってください。30 秒を過ぎると、ペアリングモードは解除されます。

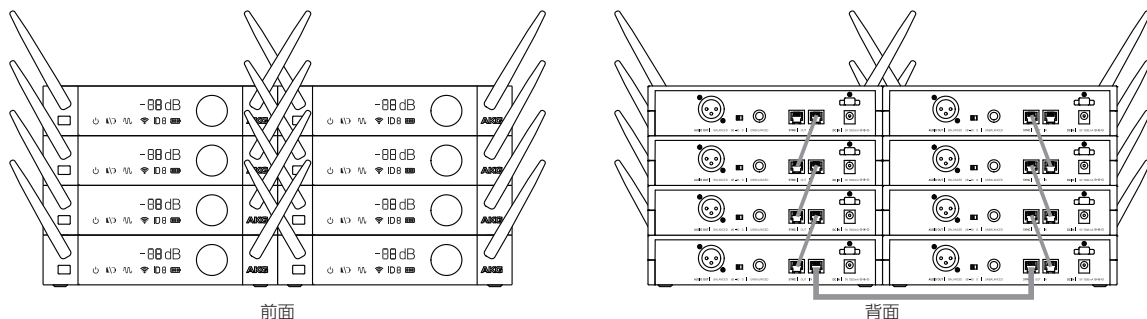
現在ペアリングされている受信機とは異なる受信機に送信機をペアリングする

- (1) 使用したい受信機のペアリングボタンを約 2 秒間押し続けます。すると受信機のチャンネル ID インジケータが素早く点滅してペアリングモードになります。音量つまみを回して、チャンネル ID ナンバーを選択してください。
- (2) ペアリングさせたい送信機のペアリングボタンを 2 秒間押し続けます。すると送信機のチャンネル ID インジケータのナンバーが素早く変化し、受信機とのペアリングを自動で確立します。正しくペアリングすると受信機と送信機のチャンネル ID インジケータが設定したナンバーの点灯に代わります。

- 備考** (1) の作業をおこなってから 30 秒以内に次の作業を行ってください。30 秒を過ぎるとペアリングモードは解除されます。

複数台を同時に使用する

本機を複数台で使用する場合は、以下の手順に従ってください。



①各送受信機をそれぞれペアリングして「ID 1～8」のチャンネル ID ナンバーを割り振ります。

②付属のシンクケーブルで受信機同士を接続します。背面の SYNC OUT 端子をほかの受信機の SYNC IN 端子に接続してください。

備考

- ・同時に 8 台使用した場合、必要なシンクケーブルは 7 本です。ループ接続にならないようにしてください。
- ・受信機と送信機の設定は電源を OFF にしても内部に保持されるため、次回からは電源を入れるだけですぐに使用できます。

トラブルシューティング

以下は、通常発生する可能性のあるトラブルの症状とその対策です。解決できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

症状	原因	解決方法
送信機の電源が ON にならない	送信機の電池の向きが間違っている。	本体に記載してある表示にしたがって、電池を正しい向きに入れなおします。
	送信機の電池残量が不足している。	新しい電池に取り替えます。
受信機の電源が ON にならない	電源アダプターが受信機の電源端子やコンセントに接続されていない。	電源アダプターを受信機やコンセントに接続します。
	受信機の電源スイッチが OFF になっている。	電源スイッチを ON にします。
音が出ない	受信機がミキサーなどの PA システムに接続されていない。	ミキサーなどの PA システムに接続します。
	ボディーバック型送信機にマイクロホンが接続されていない。	付属のマイクロホンを接続します。
	-30dB スイッチが ON になっている。	-30dB スイッチを OFF にする。
	ボディーバック型送信機のゲインの設定が低すぎる。	ボディーバック型送信機のゲインつまみでゲインを上げます。
	受信機の音量が低すぎる	ボリュームつまみを右にまわして、受信機の音量を上げます。
音が出ない、音が途切れる	送信機と受信機の距離が遠い。	距離を近づけます。送信機と受信機が通信可能な距離は約 30m です。
	送信機と受信機の間に障害物がある。	障害物を取り除くか、使用場所を変更します。障害物からは 1.5m 以上離して設置してください。
	送信機や受信機を直接地面や床に置いている。	地面や床からは離して設置します。
	雨天時の屋外で使用している。	使用場所を変更します。
	周囲で電波を発信する他の機器を使用している。	電波を発信している機器の電源を OFF にするか、使用場所を変更します。
ノイズが出る	送信機と受信機の距離が近い。	距離は少なくとも 3m 以上あけてください。5m が最適です。
	受信機とミキサーなどの PA システムの接続ケーブルが長い。	アンバランス接続ケーブルの長さは 3m 以内にしてください。
	高電圧送電ケーブル、スマートフォン、携帯電話などが近くにある。	機器の電源を OFF にするか、使用場所を変更します。
音が歪む	ボディーバック型送信機のゲイン設定が高すぎる。	ボディーバック型送信機のゲインつまみでゲインを下げます。

仕様

システム性能

電波形式	F1D
伝送 (変調) 方式	GFSK (ガウスフィルタ・シフトキーイング)
搬送波周波数	2.4GHz 帯 (2402MHz ~ 2480MHz)
到達距離	約 30m
空中線電力	10mW
レイテンシー	2.9ms 以下
THD	0.05% 以下
周波数特性	70Hz ~ 20kHz(+1/-3dB)
ダイナミックレンジ (1kHz)	116dB
AD-DA 変換	24bit, 48kHz

受信機

出力端子	XLR(3P) または標準フォーン (2P)
最大出力	XLR : +15dBu、標準フォーン : +9dBu
電源	DC 9V(1.3A)、電源アダプター (AC100V、50/60Hz)
寸法 (W × H × D)	200 × 44 × 141mm (除突起部)
質量	404g

ハンドヘルド型送信機

形式	ダイナミック型
指向特性	スーパーカーディオイド
アンテナ形式	内蔵式アンテナ
電源	単 3 形アルカリ乾電池 × 2
電池寿命	約 12 時間 ※使用環境により異なる
寸法 (φ × D)	φ 51 × 250mm
質量	252g

ボディーパック型送信機

アンテナ形式	内蔵式アンテナ
電源	単 3 形アルカリ乾電池 × 2
電池寿命	約 12 時間 ※使用環境により異なる
寸法 (W × H × D)	64 × 82 × 24mm (除突起部)
質量	70g

●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

HIBINO

<https://www.hibino.co.jp/>
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111
札幌オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三條1-1-20
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ブランド
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891
名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ブランド
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509